

平成31年度 授業改善推進プラン

第1学年 英語科

1 目指す学力・目指す授業

- ・基礎的・基本的な学力の定着を図り、生徒の学習意欲の向上を目指す。
- ・授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れの提示、反復学習による知識の定着化を図り、一単位時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。

2 生徒の現状<定期考査や休み明けテスト等からの分析>

- ・1学期に実施した生徒授業アンケートでは、「授業が楽しい」と答えた生徒が約93%だった。多くの生徒が学習に意欲的に臨み、授業内の活動にも楽しみながら取り組んでいると思われる。
- ・夏休み明けに、1学期に学習した単語や文法について休み明けテストを行ったところ、単語は50点満点の平均が26点、文法は20点満点中の平均が12点であり、全体の平均は70点満点中38点にとどまった。休み明けテストに向けた単語の練習プリントを夏休みの宿題として出し、ほとんどの生徒が提出しているにもかかわらず平均点が低いことから、繰り返しの練習をして定着を図るなど、自主的に学習を進める意識の定着が不十分であると考えられる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題と対応策

- ・基本的な単語や文法事項を定着させる。
- ・英文を書く能力を向上させる。
- ・授業内容を復習し、長期的な知識として定着させる。
- ・自分の中に定着するまで繰り返し練習を行う意識を育てる。

4 具体的な授業改善策

- ・授業のねらいを伝え、生徒が目標をもって取り組める授業を行う。
- ・生徒同士の対話によって、既習事項への理解を深めさせる。
- ・授業の最後にその1時間で学習した内容を振り返り、定着度を確認する。
- ・授業内で繰り返し音読活動を行い、文の単位での定着を図る。
- ・英単語テストを週に一度行い、点数の低い生徒には再テストを受けさせる。
- ・生徒授業アンケートにおいて「予習・復習をしている」と答えた生徒は約72%であり、多くの生徒が家庭での学習を行っていると考えている。生徒が家庭学習として行うべき内容を授業内で示し、特に復習をしっかりと行う習慣を継続させる。

第2学年 英語科

1 目指す学力・目指す授業

- ・基礎的・基本的な学力の定着を図り、生徒の学習意欲の向上を目指す。
- ・授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れの提示、反復学習による知識の定着化を図り、一時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。

2 生徒の現状<定期考査や児童・生徒の学力向上を図るための調査等からの分析>

- ・1学期の中間考査での学年全体平均は59.4点、期末考査での学年全体平均は51.3点であった。2学年になり学習内容の難易度が上がったためか、中間考査よりも期末考査の方が、点数が低い結果になった。
- ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果は、教科の内容が52.2%であった。また、教科の内容の「思考・判断・表現」の項目は37.7%であり、特にこの項目についての力を身に付けさせることが今後の課題である。
- ・授業アンケートの結果から、59%の生徒が授業の予習・復習に充分に取り組めていないことが分かった。
- ・授業アンケートの結果から、80%の生徒が、授業が楽しいと感じていることが分かった。

3 生徒の学力・学習状況等の課題

- ・1、2学年の既習事項の理解が不十分な生徒がいるため、授業内で既習事項の復習を取り入れながら、基礎基本の定着を図る。
- ・家庭学習の習慣が身に付いていない生徒がいるため、学年通信や保護者会などで各家庭に協力を呼びかけ、家庭での学習時間を増やし、学習習慣を身に付けさせる。
- ・定期考査に向けての準備に取り組むのが遅く、準備が不十分な状態で定期考査に臨む生徒がいるため、学習計画表等を活用し、計画的に学習に取り組ませる。
- ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」や1学期の中間考査、期末考査の結果から英語表現の観点に対して苦手意識をもつ生徒が多数見られた。日々の授業の中で、生徒が自身の考えを英語で表現する活動を積極的に取り入れ、苦手意識を克服することが出来るようにしていく。

4 具体的な授業改善策

- ・毎時間の授業の目標や流れを明確にすることで、生徒が見通しをもって授業に取り組めるようにする。
- ・生徒が課題に取り組んでいる際の机間指導において、「個に応じた指導」の充実を図る。
- ・毎時間の授業の中で、「学び合い学習」を取り入れ、学習事項の理解の深化を図る。
- ・授業の中で、「聞く・解く・話す」などの時間の区切りを明確にし、メリハリをもたす。
- ・生徒が自分の考えや意見等を英語で発表するなどの主体的な活動を取り入れ、教師の言葉かけなどから生徒の自己肯定感を高め、間違いを恐れずに学習に取り組む姿勢を身に付けさせながら、英語表現の能力の向上を目指す。
- ・毎時間の授業で、生徒が学習の目標を把握し、その授業でどれほど学習内容を理解できたかをワークシートを活用して振り返らせ、自らの課題設定に発展させる。

第3学年英語科

1 目指す学力・目指す授業

- ・基礎的・基本的な学力の定着を図り、生徒の学習意欲の向上を目指す。
- ・授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れの提示、反復学習による知識の定着化を図り、一単位時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。

2 生徒の現状<定期考査や平成31年度全国学力・学習状況調査等からの分析>

- ・7月に実施した第1回の実力テストの結果では平均点が42.2点にとどまり、1、2年生で学習してきた内容の定着が十分に図られていないことが考えられる。
- ・全国学力・学習状況調査で、「聞くこと」に関しては全国平均に比べて+0.6ポイントだったが、「書くこと」に関して-1.1ポイントだった。英語を聞くなどの受容能力は定着してきているが、知識を活用して英文を書いたり情報を発信する能力に課題が見られる。
- ・1学期に実施した生徒授業アンケートのうち、授業の内容をよく理解しているという項目に「はい」「どちらかといえばはい」と解答した生徒の割合は全体の74%であり、1学期の中間考査と期末考査の平均点は100点満点中それぞれ、50.8点、60.5点だった。このことから、授業の中で理解した内容を家庭で復習し、定着させていく習慣が身に付いていない点も課題であると考えられる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題と対応策

- ・音読学習を継続的に行う。
- ・授業で扱った内容を、要点をまとめスモールステップの宿題として毎時間課すなど、家庭での学習の習慣を確立する。
- ・授業で学習した文法事項を授業で復習し、定着させる。
- ・自分の考えを英語で記述できるように、既習の知識を活用する時間を増やす。
- ・音読練習や発表に自信をもって取り組むこと。

4 具体的な授業改善策

- ・授業行う際に「めあて」を明確にすることで、授業において何を学ぶのかを意識させる。
- ・音読練習を繰り返し行い、表現の定着を図る。
- ・既習事項の復習を必ず取り入れ、繰り返し指導を行う。
- ・本文の音読練習を授業の中で重点的に行い、既習事項の定着を図る。
- ・授業の中で、既習の文法事項を使って英文を書く機会を増やす。
- ・単元末テストを行い、単元毎の知識の定着を確認するとともに、単元末テストに向けて日々の家庭学習を行う習慣を身に付けさせていく。
- ・ペア活動やグループ活動を取り入れていくことで、学び合い活動を促すとともに、他者と意見を交換しながら学び合う中で知識を深め合いながら学習を行う。
- ・ワークシートに「本時のふり返し」欄を設け、自身の学習を振りかえる時間を設定する。